令和6年度 県立長野図書館協議会（第2回）議事要録

1 日時

令和7年（2025年）3月18日（火） 午後1時30分～午後3時50分

2 場所

県立長野図書館 3階会議室

3 出席者

<委員（五十音順）>

渡邊匡一会長 大林晃美委員 春日由紀夫委員 瀧本明子委員 田川圭子委員
田中一樹委員 中村仁志委員 西山卓郎委員 庭井史絵委員 松山佳奈子委員

<県立長野図書館>

森館長 山田副館長 白井課長補佐兼総務係長 槌賀企画係長 干川主査 丸山主任
祖堅資料情報課長 犬浦課長補佐兼情報係長 町田主任 柳沢主任 小林主事
畔上主事 佃主事

<長野県教育委員会事務局 生涯学習課>

市村課長 馬場課長補佐

4 会議次第

(1) 開 会

(2) 館長あいさつ

(3) 委員紹介及び職員紹介

(4) 会長選任

(5) 報告事項

ア 令和6年度主要事業及び主な利用実績について

イ 令和7年度主要事業及び当初予算（案）について

ウ 県立長野図書館業務システムの更新について

(6) 協議事項

ア 今後の蔵書構築の考え方について

イ デジとしょ信州の活用について

(7) 閉 会

5 会議の概要

(1) 館長あいさつ（要旨）

1年前、「書店・図書館等の連携による読書活動の推進について～書店・図書館等関係者における対話のまとめ～」が出されました。地域で広い意味での読書文化を一緒に盛り上げていくために、書店を初めとする関係事業者とタッグを組んでいきたいと思いますという機運が盛り上がっています。

また、現在、文部科学省の方では「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」が開催されています。学校図書館と公共図書館が同時に議論のテーブルにつくことで、それぞれの連携ということも大きな話題になってくると思います。こうした状況を踏まえ、学識経験者としては、学校図書館に造詣が深い青山学院大学の庭井先生、学校教育関係として小学校の現場で推進的な取り組みをされている中村先生に、新たに加わっていただくことができました。

社会教育関係としましては南信からぜひお願いしたいということで、飯田市立中央図書館の瀧本館長に参画していただくことができました。

長野県図書館協会及び図書館大会の見直しも並行して行われており、事務局のあり方の観点から、県立長野図書館の体制について、改革が必要な時期になっております。

こうした状況も踏まえ、忌憚のないご意見をいただきたく、よろしくお願いたします。

(2) 会長選任

本日1月1日付けで委員が改選され初めての会議のため、新たに会長の選任が必要となる。慣例により、委員の皆様の互選で渡邊匡一委員を会長に選任した。

(3) 令和6年度主要事業及び主な利用実績について

資料1-1, 2により館長説明

資料1-3 により祖堅資料情報課長説明

資料1-4により犬浦課長補佐兼情報係長、槌賀企画係長、説明

(4) 令和7年度主要事業及び当初予算(案)について

資料2-1により館長説明

資料2-2, 3により祖堅資料情報課長説明

(5) 県立長野図書館業務システムの更新について

資料3により小林主事説明

(6) 今後の蔵書構築の考え方について

資料4により犬浦課長補佐兼情報係長説明

(7) デジとしょ信州の活用について

資料5により槌賀企画係長説明

(8) その他

(10) 主な質疑応答

○令和6年度主要事業及び主な利用実績について

質 疑	応 答
KinoDen が 12 月に 507 冊で増えている理由は、何であるか。(田中委員)	KinoDen は、閲覧サービスですので、特定のコンテンツに閲覧が集中する特性があり、それで閲覧件数が伸びています。12月単月で増えたのは、力学・物理学系の書籍関係が増えている。その書籍だけで閲覧件数が70、80件位あった。(祖堅)

<p>りんごの棚のコンテンツに関して、とてもいいことだが、これはあるだけでは全然役に立たないので、営業とか、広報活動をしてこそ成果がある。りんごの棚があることを知ってもらい、その対象となる人たちを呼び込む、繋げていくことだが、その辺は何か考えがあるのか。(田中委員)</p>	<p>ご質問のとおり、りんごの棚を作っただけではいけない。当館は、バリアフリー関係のサービスについての取組に弱い面があったので、まずりんごの棚の設置を目指し、今年度設置ができた。また次年度に向けて、福祉系の県機関の部署と連携をしながら対象者に届くような広報の検討を進めて、デジとしょ信州も含めて使っていただく方法などを、広報していきたい。(犬浦)</p>
<p>KinoDen など電子書籍は、特殊要因により数字が動いており、その中でも児童書籍は2%から2桁パー貸出冊数が落ちた。そこに対しての館内の数字の受けとめ方、それに伴って図書館の政策の方向性を、どのように捉えているのか。本として貸出をしたけど、先程、説明があったヤングアダルトの学びの形ってというのは本以外にもいろいろやっているの、こちらの方が、主なので、貸出冊数の減が、それ自体問題ないのか、方向性違えたのか、そのあたりをどうお考えになっているのか。(西山委員)</p>	<p>県立長野図書館の役割は、直接的に本を貸出すことだけがミッションではないので、入館者数や貸出数の増減に一喜一憂しないスタンスです(瀧本委員からのコメントいただければ)。とはいえ、物理的に長野市に存在しているため、長野市の開館状況の影響を大きく受けることも確かです。全県のことを考えて、全県で本がどういふふうに流れているのか、そこに電子書籍が加わることによって今まで届かなかった人にも届いているのか、本の貸出以外のパフォーマンスに変化があるのかも見ていきたい。</p> <p>全県を見ていくためには、統計の取り方や、数字の読み方を工夫しないと、説明は難しい。その観点で努力を始めたところ。</p> <p>この統計では出てこない、例えば「こどものモール」という西山委員にも関わっていただいた事業をすることによって、今まで図書館に来たことがない人たちが来ていかに読書活動に結びつけることができたのか。知る・学ぶという広い意味がそこにあるので、必ずしも「読書」につながらなくても評価されていいと説明をするのか。皆様のご意見を伺いながら、考えていきたい。</p> <p>(館長)</p>
<p>県立図書館は入館者数とかの数字で一喜一憂するものではなく、広く県民に資するものとして作ってあげたらとのお考えですが、例えばこういう取組を県立図書館でやり、やったことに対して、市町村図書館からその事業に対して、問い合わせや、依頼があったとかを明記</p>	<p>先日、南信地区の図書館研修会に、当館の職員が呼んでいただき、市町村連携事業について、説明をさせていただく機会があった。そういった場で全県に何か効果を示せているか、お話を瀧本館長に伺ってみたい。</p> <p>(館長)</p>

いただけると、実感できると思う。(西山委員)

南信地区で図書館サービスを行っている者としては、県立図書館は来館者数が多い少ないにこだわらなくてもいいと考える。南信州に住んでいると県立図書館に直接来館はほとんどできないし、学び創造ラボにも行ったことがない市民の皆さんが大勢いる。図書館としての可能性を示すことや、図書館はこんなことができる、ということ先進的に示していただくことが県立図書館の役割として大事。貸出とか資料の提供、情報の提供に関して、全県を視野とした政策の方が必要。児童の貸出数が30代の方が多いとか、親子や子供のいる方が多いという傾向は統計からわかるが、下伊那の県民からしてみると来館者に力を入れるというよりは、相互貸借であるとか、電子書籍にしても全県民に使っていただけることに力を入れていただきたい。例えば KinoDen の統計も、だんだん利用が減っている状況が分かるが私達公共図書館でのレファレンスの中でも案内をしていきたいと思っている。KinoDen の中でもどんな資料がよく使われているとか、そんな情報もいただき、公共図書館が間に立てるように力を入れていただければ、というのが物理的に遠い図書館や市民の皆さんの気持ちだと思う。

先日、県立図書館の方に講師になっていただき、下伊那の図書館でどうやったら私達公共図書館が仲立ちをして、県民に県立図書館の資料を使っていただけるかを研修した。そこには、公民館図書室の方も参加したが、こういう活動は、ありがたい。これからも取り組んでいただきたい。(瀧本委員)

一つの有効な方法として相互貸借、利用者のネット予約の受取サービスがある。各地域の図書館の仲立ちによって、全県的に、物理的に当館から遠い方にも書籍が届けられるので、非常に重要視している。

ただし物理的な本を流通させることは送料がかかるので、予算の限りもあり辛いところである。先日の研修は、図書館関係者でもどんなサービスがあるかご存知ない方もいる中で、知っていただくことができ非常にありがたかった。統計資料の出し方を今回いろいろ工夫したが、他のミッションを遂行するためには他の指標がある。それらとの関係性が見えるように、引き続き工夫していきたい。(館長)

<p>今の県立図書館のサービスのいろんな数値見せていただいたが、メインターゲットや、この年齢層、地域など、このあたりが弱いので特に力を入れたい、重点的に利用を促したいところは想定や設定がされているのか。(庭井委員)</p>	<p>年齢層など、メインターゲットは特に設けておらず、全県民ということになる。デジとしょ信州については、ターゲットが三つあり、公共図書館が開館している時間に、利用がしづらい現役世代。学校でタブレットが使えるデジタルネイティブな小中学校生や高校生。読書バリアフリーの観点で、通常の書籍は読みづらいけれども、電子書籍であれば、文字の拡大あるいは、音声で聞けるといった形で、これまで届きづらかったところに届けようとしている。(館長)</p>
<p>サービスの充実度を測る指数、貸出冊数とか来館者数ではなくて、もう少し質的に評価をするような基準、満足度調査とか幸福度調査とかあるが、そういった基準でサービスを評価しようという試みや議論は、これまでであったのか。(庭井委員)</p>	<p>図書館界全体で課題になっていることだと思うが、今のところその質の評価の有効な評価ができる新しい価値観の評価は、まだ定着していないと考えている。</p> <p>当協議会でもご指摘をいただき、利用統計の数的な評価だけではなく、事業計画に基づいた成果のご報告をして、質的な評価に資することができないか試みているところ。(館長)</p>
<p>地域資料のデジタル化をご紹介いただいて、点数が増えていることが素晴らしいが、学校での利用が非常に期待される場所だと思う。教材化について、地域資料があるというだけでなく、これをどう教科で活用したらいいのか、教育関係の専門家と連携した取組も継続しているのか。(庭井委員)</p>	<p>大きな課題で、令和7年度から始まる「第5次長野県子ども読書活動推進計画」でもデジタルについては言及されているが、デジタルアーカイブや電子書籍を授業に活用していただくための情報提供、有効な情報提供のあり方は、今後、本格的に取り組んでいきたい。</p> <p>県内の中学校の先生が、デジとしょ信州を探究授業や部活で積極的に使ってくさっているが、アンテナが立っている先生が例外的に活用いただいている状況で、単発的な取組が多い。それを線につなぎ面になるよう、引き続き力を入れていきたい。(館長)</p>

<p>地域資料をアーカイブしていくという使命を県立図書館が持った。そういうコーディネーターとしての役割を担っていただきたい。デジタル化は、やってみてわかったが、公民館だけでやることは不可能で、地域の人が遊び場的な場所を作ってみんなでやろうよと持っていかないと、無理だ。</p> <p>そのコーディネーター役を、県立図書館とか公的機関が担っていただけるとありがたい。特に、例えばデジタルアーカイブは、これに触れた人たちは、「これいいよ、もっと広げたい」と言ってくれる。宣伝が足りないのでPRしますし、どうぞ継続してやって下さい。</p> <p>デジタルアーカイブに関して、本対応のところではQRコードをつけて、使いやすくしているので、教育関係等と連携することを今想定し作業をしている。学校と連携しているので、子供たちと話をすると、気軽に映像を出して見ることができるので、ぜひ今後も広げていきたい。</p> <p>今デジタル化していく中では、例えば、伊那市も市史をデジタルで作成している。飯島町もデジタル化をやりたいと言っている。デジタル化は、一緒に考え、やり続けていくことなので、このコーディネートをやっていただきたいと思う。(春日委員)</p>	<p>先日、ステップアップ研修のデジタルアーカイブ講習会で南箕輪村に行ったが、学校図書館と公共図書館の方以外に地域の歴史を編纂している方が参加してくれた。その方は、「東伊那で実践していることが良いので、自分たちもやりたい」といっておられた。実践をしてくださっているところの話が横に広がり、やりたいという方の参加があったということで、非常に有り難かった。</p> <p>長野県の場合、県立図書館が大々的に説明会をして「皆さん使ってください」というより、草の根的に自分たちがやりたいという相談に来てくださるといほうが、効果的だと感じている。なかなか進まず、宣伝不足と思うこともあるが、「やってみたい」と思ったときに伴走できる体制を整え、取り組んでいきたい。(館長)</p>
<p>資料1-2に関して、その取組方針のところの二つ目に、「第4次長野県教育振興基本計画ウェルビーイングの実現」というところが上がっている。その下に取組方針が四つあるが、それは上段の「ウェルビーイングの長野県教育振興基本計画」のどの部分と関連されているのか。(中村委員)</p>	<p>取組方針は、上位計画が策定される前に作ったため、必ずしも一対一で対応していないが、当該期間の教育振興基本計画にのっとって事業を行うことを意識している。例えば、「個人と社会のウェルビーイングの実現」というコンセプトについては、個別最適な学びと、協働的な学びの両方を実施するため、「長野県 eLibrary 計画」の信州ナレッジスクエアの拡充と、電子書籍サービスによる学校との連携など、実際に子供たちが学びやすくしていくための手段としてデジタル</p>

	を活用する形で、それが結果的にウェルビーイングに繋がる、そういう関係性を意識しながら事業を展開している。(館長)
--	--

(意見)

- ・ 私が図書館長に在職しているときに、同じように量だけの評価だけでなく、質の評価にも取り組もうとしたが、議論されなかったが、いよいよそういう議論になって、今日は感動して聞いていた。公民館活動に対する評価の方式も全く同じで企画をしている人が集まればそれでいい、という評価になってきているので残念で、勉強をさせていただきたいし、公民館と一緒に連携をしていただければと思う。

デジタル化に関してですが、県立図書館にご協力いただき、この東伊那の残っている古文書や、映像のデジタル化が進み、大体今 300 点ぐらいデジタル化が済んでおります。アップロードして、アーカイブに登録させていただいた。

当初に館長に相談した時に比べると、県立図書館の職員の対応が変化したと感じた。出かけて行って、デジタル化の良さを広げていく姿がある。それが仰々しくならず、簡単に、教えてもらったり、やり方を聞いたりできるようになっているので、ぜひこの流れを止めないでと思う。これが評価に繋がる。(春日委員)

○令和7年度主要事業及び当初予算(案)について

質 疑	応 答
予算の中のデータベースの予算は前年度と変わらず、ただ単に値上げをしたという状況か(大林委員)	データベースの価格も毎年毎年少しずつ値上がりしており、その分、資料を買うお金を少し削りつつ、全体のシーリングの中に入れ込まざるを得ない状況になっている。(祖堅)
そういった中で費用対効果といいますかどれだけ使われているかという中で購入を、やめる・やめないの検討は、されているのか。来年度に向けても減るのか。(大林委員)	令和5年度に、利用が少ない費用対効果が低いものをいくつか止めた。しかし、ただ使われないから直ちにやめていいのか、いざという時に使える環境をいかに維持するかも大切ではないか、と考えている。費用対効果を見てはいるが、いくらアクセス当たり幾ら以上かかるものは単純にやめるというような議論はしていない。 公共図書館の場合、リモートアクセスができる大学図書館との大きな違いがある。近隣の住民の方で来館できる人は使えるが、そうでない県民の方には使いづらい。そこで、県内の図書館を通じて、各図書館の来館者が資料を調べたい時に、これは

	このデータベースを使えばわかるのでは、ということで県立図書館に相談いただき、代行で調べて結果を報告するというリファレンスツールとしても使えると考えている。そういうアナウンスが足りていないので改善したい。(館長)
<p>主要事業計画の空間の整備に入っている木質化・LED化は、この図書館予算の資料に入っているのか。</p> <p>図書購入費の予算額が下がっているところは、人口減って、それで税収が減っていくと考えると、予算が減るところであるが、とはいえ、紙の本のニーズは一定度あるので、書店支援の文脈にも関係するが、ある特定の要件を満たした古本でもいいのではないか、効率的な税金の効率的な活用といった考えで、選択肢として検討してもいいのではないか。(西山委員)</p>	<p>木質化・LEDも図書館予算ではない。県の他の部局の予算です。(白井)</p> <p>後半に、財源と世の中で刊行されている書籍の点数との関係性を見ながら議論していただきたいと考えている。(館長)</p>

○県立長野図書館業務システムの更新について

質 疑	応 答
<p>将来的な主な検討事項にある、AI等の最新技術を活用したサービスの高度化、そのものを具体的に何か想定しているのか。(田川委員)</p>	<p>ごく簡単なクイックレファレンスなど、人間がいろいろ中身を吟味し、調査して答えること以外に、窓口で繰り返し聞かれることがあるので、それをチャットボットのような形で使っている館が既にあると思う。既に実用化されている部分を、費用対効果を考えて入れていく方向性が一つ。</p> <p>もう一つは、例えば県内の図書館の蔵書を横断検索する「信州ブックサーチ」にAIをかませ、探しやすいようにサポートするといったことを実験ベースで行っている。こういった、あたらしいチャレンジもしていければと考えている。(館長)</p>

<p>将来的な検討事項のスマートフォンを利用した本の貸出と、自動貸出機の導入があるが、人件費を見ると、予算的に増えてきている中で、スマートフォンを利用した本の貸出、自動貸出機の導入をやるということに関して司書の仕事の、どういったところに費用を集中させようと思われているのか。(田中委員)</p>	<p>正直ジレンマがある。新しいことにチャレンジしようとするれば、今までの仕事にプラスアルファの仕事になり、過渡期は厳しい。人手を介さない技術を導入すると、その分の人件費を削るという話になりやすい。技術の進展は、非人間的な仕事から解放してくれるはずで、人間でないとできないことに注力していきたい。専門的でなおかつ人間がやることでサービスの質が担保できる部分や、さまざまな活動のつなぎ役や伴走役となるコーディネーターとして、一緒になってやるよと言っただけの余地を作り出し、全体として、いいパフォーマンスをしていきたい。(館長)</p>
<p>クラウド移行と DOI の導入できる業者ってというのは、国内にいるのか、実は、その業者しかやっていないということなのか。導入スケジュールにある 5 ヶ月ぐらいのスケジュールで、間に合いそうなのか。(西山委員)</p>	<p>図書館システムは国内のユーザーが限られているが、それでも複数社、図書館システムを提供されている事業者がいるので、その中から最善を入札で選び、この期間で間に合わせる。(館長)</p>

(意見)

- ・ これは地域の編集委員長さんからも言われたが、DOI の導入はぜひやっていただきたい。これから 100 年残していくためにはこれが必要、ぜひお願いをしたい。(春日委員)

○今後の蔵書構築の考え方について

質 疑	応 答
	<p>先程西山委員からご提示いただいた資料費について、県立図書館は、選書基準に基づいて精査して購入している。それでも物理的な本を買う予算が足りなくなっている、これからは今までのような方針で買うことができなくなる恐れがある。紙の本と電子書籍を、それぞれの特徴に応じてどう購入していくのか、検討していく。選書ツールは新刊案内を使い、新刊書の中から選書しているので、古書店さんの在庫があるかどうかは見えない。なるべく出版から時間をかけずに導入して利用に供したい。そのルーチンの中で古書店の在庫状況を見ることはないが、郷土資料など、出版から時間が経っているが、県立長野図書館として</p>

	<p>備えておくべき郷土資料は、積極的に古書店の目録を見たり、出展されている古書店に買い付けに行ったりして、取入れている。書店からの取入れと、新刊書の取入れとに二分化されている状況なので、他に良い方法があれば取り入れたい。(館長)</p>
<p>予算が減っていく中でも、検討のそ上に古書店の選択肢を置くことが難しいという気がしていて、児童書とかも、例えばイメージで申し訳ないが、ある児童書も何刷りもしているが、そもそも、新刊としての扱いは、もういいのではないかと柔軟に考えていった方が、利用者にとってはいいと思う。利用者は、どんな由来の本であれ利用できるという保証の方が大事ではないか。瀧本委員から、今のこの県立図書館として何を買うべきか、お話を伺ってみたい。(西山委員)</p> <p>私どもの図書館でも、出版点数と蔵書の乖離がある。県立図書館は、文学は受賞したものだけを購入されていると聞いているので文学を多く買うことはないと思うが、児童書も購入を抑えていただいている。市町村公共図書館の希望としては、もう少しランクの高い専門書や、実用書で専門的なものを蔵書としておいていただきたい。</p> <p>今も県立図書館に相互貸借をお願いしているが、県立図書館になくて、他の図書館に、例えば長野市であるとか松本市であるとかにお願いするものが結構な数あると思うが、これから先もそれでもいいのか。県立図書館の役割としてどういう本を集めていくかということになるが、他の図書館にあるならそれは他の図書館に借りることでもいいのか、それとも県立図書館にあって置いていただければ、郵送費を持っていただけて市町村の負担がないということもあるので、県立図書館に購入してもらうことを希望したほうがいいのか、考えているところ。(瀧本委員)</p>	<p>県立図書館との相互貸借は県の予算で送れるが、市町同士だと、送料がそれぞれかかってくるので、なるべく県立図書館として買えるものを買って提供していきたいというのは、理解しているところ。県内図書館からの働きかけで、県の選書基準に照らし合わせて、購入して提供するというサービスもやっている。児童書についても、予算の出所との関係もあるが、本以外の学びのツールにも視野を広げている。「長野市立若里図書館にならないように」と職員間で良く話している。こういったことも含めて、館長会議などで改めてお話させていただいた上で、個別具体的に、ご相談があれば対応させていただきたい。(館長)</p>

<p>ジャンル別で分けているがこれは、図書館でポピュラーな分け方なのか。郷土と児童書が一緒になっているが、これは分けられないのか。(田中委員)</p> <p>社会科学には何が入っているのか、全然わからないので、何かこの辺も資料として見えてくればいいと思う。(田中委員)</p>	<p>図書館の一般的な分け方で記載している。ジャンルが一緒になっているのは、出典の社会教育調査・出版指標年報の統計がそうなので、分けられなかった。(館長)</p>
--	---

(意見)

- この社会科学というのが突出しているが、多分これ、「頭のいい人の話し方」とか心理学系の「なぜあの人はそうなのか」とか、そういう出版物と思う。最近久しぶりに書店に行ったら、そういう系列の本が多数並んでいた。出版点数の割合の中でいわゆるビジネス系の出版物に圧迫され、その点数が社会科学の分類の中で多いのかなと推測して、だとするとこれを図書館で購入する必要はあまりないので、この社会科学に関する偏りというのは問題にしなくてもいいと私は思った。今、こちらの方針を伺って大変嬉しく思ったが、個人で買えない、市町村でも購入できない本をできるだけ選書していただいているというのは改めて、嬉しく思う。(田川委員)

○デジとしょ信州の活用について

質 疑	応 答
<p>デジとしょ信州のコンテンツの数はどういう推移になっているか。(西山委員)</p>	<p>資料1-4の(4)(ウ)に記載されているが、令和7年1月末現在で26,729冊です。(槌賀)</p> <p>多い時で約29,000点あったが、現時点26,000というのは、蓄積できる買切型と、54回ないしは2年間使ったら読めなくなる制限型があるため。値付けは出版社サイドが決めており、一般的に人気のある本は制限型が多い。何年も続けていくことによって、買切型のものが少しずつ増えていくが、2年周期で使えなくなるものは出るので、利用できるコンテンツの数は、乱高下する。(館長)</p>
<p>デジとしょを使った方が、また使いたいと思う書籍があるかどうか、これから先使っていただけるかどうかにかかってくる。電子書籍に新しいものがないとか、出版社の方で、まだ図書館用にはしていただけないものがあるなど、これから先、読みたいもの新しいものも載せていただくことを訴えていく必要があると思う。そうすると使う方が増えてくことに繋がるのではないかと思う。そ</p>	<p>正にそこをやっていかなければならないと思っていて、ユーザーの声は、出版社の方にとっても大切だと思うので、利用者の方の声を集めていきたい。今後、電子書籍のユーザー界を長野県だけでなく、他の県のユーザーと横の連携をとり、コンテンツの状況や、操作性の向上などを訴えていきたい。(館長)</p>

<p>こを県立図書館と一緒にやっていきたい。(瀧本委員)</p>	
<p>県外から移住してきて、長野県の図書館の取組を利用者として見たときに、私はこういう業界にいるのでどんなことをしているか見えるが、周辺で話をしても知らない人が多い。県として、こういう取組をした、こういうデータがある、というものを、例えば県で創造ラボができて、これが県内の他の市町村に広がってこの5年でこれぐらいできたとか、何か県全体の動きのデータと合わせて見ることができると、より県全体の取組として私達も意見が言えると思った。初めて本屋がない町に住んで、図書館の重要性を利用者として非常に感じているところである。(庭井委員)</p>	<p>県立長野図書館の『概要』の他に、全県の図書館の情報を網羅的にまとめた『概況』という資料がある。ウェブサイト上では、別に置いているので、それを同じところに置いて業務を見ていただけるよう改善をしたい。</p> <p>また、『概要』や『概況』は図書館行政に興味があって、専門的言葉もわかる方向けの情報。これから長野県に移住するときに、自分の行き先はどのような文化的な資源があるのか、充実しているのか、十分な情報提供ができるかという視点で皆さんと工夫していけたらと思う。(館長)</p>

○その他

(意見)

- ・ 第5次長野県子ども読書活動推進計画の推進取組の柱2で 推進方策で「学校における読書環境の整備」、それから「子供の読書活動を支える人的体制の整備」というところが、とてもありがたいと思う。

具体的なところに、どちらも連携という言葉がある。県教委と学校とが連携、県教委と県立図書館が連携、ここは特にお願いしたいと思っている。私、読書のことをともに学んでいる九州地方のある県の先生によると、学校と県立図書館の人事の交流があって、学校の職員が人事で図書館に行き、そういう先生が学校に戻って教頭先生になっているというお話があると聞いた。今すぐにはないが、そういう人事交流をして人材を育成して行って欲しい。単発で研修会をするだけでは、変わっていかないと私は思う。

人事交流することの他にも、長野県の中では、学校図書館支援センターというものが茅野市にあると聞いている。

学校図書館の、司書教諭という立場でいても学校の図書館教育をどうやって進めていったらいいか悩みながら、とても先進的なことなどできていないが悩みながらやっている。そんな私達、司書教諭にとって、学校図書館の支援センターというものがあることも、人材が育成されていくことにつながると思う。

この計画にすぐ入れてくれということではないが、そういう考え方もあると思う。太い黒字が学校司書だけのところもあるが、司書教諭も入れていただきたいと思う。事業するのは学級担任ですし、そこに司書教諭も関わって司書の先生も協力いただき共同で授業を作っていくということが大事

だと思ふ。司書教諭の立場も一緒に研修とか育てていただければと思ふ。(中村委員)